

一般社団法人 日本静脈経腸栄養学会
2019年度 第3回定例理事会議事録要旨

日 時：2019年5月17日（金）15：00～19：00

場 所：東海東京証券（株）オルクドール・サロン

出席者：理事長：東口高志

副理事長：佐々木雅也

監 事：田妻 進、寺本房子、土岐 彰

理 事：飯島正平、石井良昌、犬飼道雄、遠藤陽子、倉田なおみ、小谷穰治、小山 諭、
斎藤恵子、篠 聡子、清水孝宏、鈴木 裕、高増哲也、中瀬 一、鍋谷圭宏、
野上哲史、福島亮治、二村昭彦、丸山道生、三原千恵、室井延之、山中英治、
吉田貞夫、鷺澤尚宏

特任顧問：平田公一、平井敏弘

事務局幹事：伊藤彰博

記 録：中川庸幸（事務局）

欠 席 者：監 事：比企直樹

（敬称略：五十音順）

議 題：

I. 理事長挨拶

定款第5章第28条に則り、2019年度第3回定例理事会を開催することが宣言され、定款第5章第30条に則り、議長は理事長が務め、議事録署名は定款第33条に則り、理事長と出席した監事（田妻 進、寺本房子、土岐 彰各監事）となることが確認された。

II. 前回、前々回理事会議事録の確認について

承認された前回理事会議事録が示され、議事録署名手続きに入ることが報告された。

III. 会員動向について

事務局より2019年3月31日時点の会員動向について、報告された。

■2019年3月31日現在 ※宛先不明97名含む、退会・休会除く

会員種別	2018年12月31日	2019年3月31日	増減
名誉会長	2名	2名	±0名
名誉会員	43名	44名	+1名
特別会員	48名	51名	+3名
代議員	237名	235名	-2名
学術評議員（代議員は除く）	395名	422名	+27名
正会員	20,401名	21,035名	+634名
寄贈会員	7名	8名	+1名
総数	21,133名	21,797名	+664名

■職種別

医師	4,659名	栄養士	83名	診療放射線技師	1名
歯科医師	392名	臨床検査技師	716名	その他*	818名
看護師	3,965名	理学療法士	408名	*ログインシステム未入力会員	
准看護師	4名	作業療法士	117名	合計	21,797名
薬剤師	3,890名	言語聴覚士	583名		
管理栄養士	6,045名	歯科衛生士	116名		

IV. 委員会予算執行状況について

事務局から2019年1月1日～3月31日までの委員会予算執行状況が報告された。

V. 2019-2020年度委員会改変について

東口理事長から理事会・代議員に行った希望アンケートも参考に2019-2020年度委員会・WG・WT・プロジェクトの委員案が示された。今期は委員会自体の統合・再編も併せて実施し、一部修正の上、承認された。選出された委員の先生方には、事務局より委嘱状を送付する。

VI. 第34回学術集会報告について

福島前会長から第34回学術集会が無事成功裡終了したことが報告され感謝が述べられた。

VII. 第35回学術集会について（合同シンポジウムの取り扱いについて）

- ・JSPEN2020（第35回学術集会）における第34回からの合同シンポジウムの継続について確認がなされ、以下の学会との合同シンポジウムを継続することが承認された。
日本サルコペニア・フレイル学会、日本外科感染症学会、日本臨床腸内微生物学会
- ・新規「合同シンポジウム」の実施について
お互いの学会戦略や年次学術集会会長の企画、両学会の理事会の合意を必要とするケースなど、シンポジウムの提携・定義付・プロセスについて整理を行った。
JSPEN2020については、日本心不全学会、がんサポーターブケア学会との合同シンポジウムを開催することが承認された。

VIII. 今後のJSPEN学術集会に関する確認事項と問題点について

- ・JSPEN2021以降の合同シンポジウムについて
上記の議案を受けて、①年次学術集会会長の企画として合同シンポジウムを開催したい場合、②他学会より当会学術集会で合同シンポジウムを開催したい場合、③他学会より相手学会学術集会で合同シンポジウムの依頼があった場合について、実施までの承認プロセスについての確認を行った。
- ・合同シンポジウム開催にかかる諸経費について
相手学会への派遣の場合、依頼文書等で諸経費負担に関する記載が不足することで双方の認識の相違は発生する事案もあることから、派遣者も学会事務局も先方への確認を行うことになった。

た。

- ・年次学術集会・支部学術集会における COI・IRB・著作権・二重発表（本会と支部含）について二重発表の罰則は当面は設けず、注意喚起のみとすることで確認された。
- ・演題発表資格について
現在の定義について確認し、当面は現行方針でいくことを確認した。
- ・IRB に関する事項について
これまでの協議内容と今後の検討課題が再確認された。
- ・学術集会検討委員会の審議事項として、年次学術集会の開催地の検討について
学会事務局・総務委員会・本委員会で連携し従来どおりの開催地候補の検討を進めることが確認された。
- ・①記念 AWARD 選考（小越章平記念 Best Paper in The Year 選考委員会・大柳治正記念学術振興アワード選考委員会）、②学術 AWARD 選考（YOUNG DOCTORS AWARD 選考委員会、YOUNG INVESTIGATOR AWARD 選考委員会、スカラーシップ賞選考委員会）③フェローシップ選考（フェローシップ委員会）および ④臨床栄養推進部門と代謝研究推進部門の組織改編に伴う選考体制の再編について
新組閣でのアワード選考 WG の対応・手続きについては、別途、学術集会実施支援委員会を開催し、詳細について協議することになった。なお、これまで社員総会後に開催されていた表彰式および学術集会時の受賞講演（講演後の授賞式）は、スケジュール変更を行い、総会・学術評議員会を会期二日目の昼へ移動し、そのあとにフェローシップ賞も含めた全体の表彰式を執り行うことが提案され、第 35 回学術集会から実施することが、承認された。

IX. 2022 年以降の学術集会・支部学術集会・セミナー運営について

2018 年度第 4 回定例理事会（2018 年 11 月 16 日（金））にて、支部会を含む学術集会や各種セミナーなどの運営担当コンベンション選定について、コンペ方式による包括的複数年契約の提案を行うことが承認されたが、支部学術集会を含む包括契約については、地域も規模も異なるためある程度のレベルを同会社が維持することも逆にリスクを伴うとの意見もあったことから一旦保留とし、学術集会とセミナー運営に絞り準備を進めていくことで承認された。スケジュール・支援対象行事・支援対象期間についても、コンベンション会社とのヒアリングを経て、実施を目指していくことになった。

X. 支部のあり方について

- ・支部の現状と問題点について

支部は各支部の特徴や地域性を尊重し、支部学術集会の開催、勉強会やセミナーの開催などの運営に関しては一任してきたが、活動を進めていく中で、財務内容や経費支出項目についても各支部で認識が異なり、各事業内容においても内部統制を考慮した検討を行う時期になってきた。さらに各支部に一律 100 万円の活動補助金を支援しているが支部毎における会員一人あたりの助成金額の格差について公認会計士・顧問弁護士からの指導も受けているため、本理事会にて抜本的な改革を進めることが提案され、承認された。

また、これまで支部会則の上部規則となる支部規則案が策定されていなかったため、今期同規則案を制定し、支部会計年度も本部の会計年度と併せた合同会計とし、他の主要学会同様な組織再編を行うことが承認された。

- ・支部会員数の格差について

資料に基づき、各支部一人あたりの補助金額が提示された。また、同視点からの支部区分についても案も示された。今後、多様な意見も拝聴し再編成案を検討・提示する。

- ・移行スケジュールについて

本支部改革は、2019年12月までに完了し、2020年1月1日よりスタートを目指す。骨子は、支部統括委員会で協議し、その後、支部長会議を設けて説明することになった。

- ・支部会の事業活動について

2020年度に向け、各支部には支部学術集会も含めた事業計画・予算提出を求めることになった。支部補助金の一律支給は終了とし、事業計画を参考とした支部活動補助金を支出する方針に変更する一連の方向性についても承認がされた。

XI. 支部学術集会における各種団体（学会・職能団体）への研修単位申請について

支部学術集会において取得できる各種団体の研修単位申請について各支部で異なることから今後は可能なところから本部申請に切り替えて、各支部参加クレジットの統一を進めることになった。

XII. 各種委員会・部会 審議事項

総務委員会（飯島理事）

- ・休会申請時の更新期日延長申請の利用期間について

NST 専門療法士認定資格において、過去の休会申請と連動し、更新時の会員歴不足緩和のため「更新期日延長申請」制度を2017年2月に設けた。施行後2年が経過し申請理由を検証したところ、会員個々の相談事例があまりに多種多様で現時点の基準では対応しきれない事例もある。このため担当委員会の確認を経るが、当該年度内を原則とし、休会申請が遅れた場合には、遡った期間において公的な証明書（休職証明等）の提出が可能であれば、申請を認めることとした。ただし、悪質な事例も想定されることから適宜、見直しを行っていくことを条件に承認がされた。

- ・「学会誌 JSPEN」掲載論文における企業からの別刷購入依頼について

ある企業から自社製品の使用がある論文が「学会誌 JSPEN」に掲載された。同社からは著者本人に同意を得たうえで、商品紹介資料として利用のため別刷購入に関する問い合わせがあった。営利目的での別刷印刷の依頼であることから、事務局手数料も考慮した請求体系を設定しておく必要があり、他学会も参考に当会の請求計算式が提案され承認された。

- ・医学中央雑誌刊行会「学会誌 JSPEN」著者抄録利用許諾について（編集委員会審議含）

医学中央雑誌刊行会（以下、医中誌）にも掲載登録の申請を行った。それに並行し「医中誌 WEB」への掲載など諸手続きを進める中で「学会誌 JSPEN」に関する著者抄録利用許諾についての契約依頼があり、同様に手続きを進めることで承認された。

- ・第3回日本リハビリテーション医学会秋季学術集会後援について

第3回日本リハビリテーション医学会秋季学術集会の正門由久会長（東海大学）より後援依頼が届いた。当初、同秋季学術集会からは合同シンポジウムの開催依頼があったが、所定の手続きにない内容とスケジュールであったため、見送りと回答とさせていただいたが、改めて後援依頼をいただいたため、今回は「承認」として回答することが確認された。

- ・「栄養の日・栄養週間 2019」に対する後援名義申請について
公益社団法人日本栄養士会主催の「栄養の日・栄養週間 2019」に対する後援名義使用の許可申請あり、2017年・2018年同様に承認された。

国際委員会—LLL ワーキンググループ（高増理事）

- ・第17回 LLL ライブコースについて
第17回 LLL ライブコース開催のため Topics・講師案が提出され承認された。また、収支改善のための改善案が提出され、併せて承認された。

日 時：2019年8月3日（土）～4日（日）

場 所：東海東京証券（株）オルクドール・サロン（名古屋）

※収支改善に向けた取り組み

- 参加者を広く募集するため、募集期間を十分に確保する。（5/20～7/20 予定）
 - Topics は基本的なテーマ以外は、最近取り上げられていなかったもので企画する。
 - 支出削減のため、講師には原則 2 Topic を兼任していただく。
 - 謝金については、1 Topic あたり 3 万円から、1.5 万円に変更する。
- ・LLL Teacher 派遣について
2019年のLLL講師資格取得希望者募集（公募）を行い、Diploma取得者で以下2名から応募あり、WGで派遣資格有と審査したことが報告され、承認された。
牧 香代子 正会員（山尾病院 看護介護部主任）【看護師】
長沼 篤 代議員（高崎総合医療センター 消化器内科 部長）【医師】
また、以下の2名は渡航補助の申請ないが、自費渡航によるLLL講師資格取得を希望しているとの申請が報告され、JSPEN理事長からの推薦状を手配することが承認された。
奥村 仙示 学術評議員（徳島大学・栄養学科・臨床食管理学分野）【管理栄養士】
田中 啓之 正会員（横須賀共済病院 腎臓内科 部長）【医師】
以上4名が今年のESPENでのT-LLLへ応募申請することになった。

教育委員会（鍋谷理事）

- ・2019年マスターコースの開催計画と領域について
第5回マスターコースは、3月31日に開催し、参加者74名（医師7名、看護師15名、管理栄養士21名、言語聴覚士1名、作業療法士1名、薬剤師29名）であった。第6回は、本年10月6日（日）に名古屋で開催予定であり、内容は検討中だが、臨床栄養代謝専門療法士制度に関連する領域を遡り下記のとおりとしたので、概ね9領域が一通り終了したことが報告され承認された。
第1回：(a) がん、周術期・救急周術期中治療、摂食嚥下、(b) 在宅、リハビリテーション

第2回：(a) がん、周術期・救急周術期中治療、肺疾患、(b) 腎疾患

第3回：(a) リハビリテーション、(b) 肝疾患

第4回：(a) がん、(b) 小児領域

第5回：(a) 肺疾患、(b) 周術期・救急周術期中治療

・2019年NST医師教育セミナーの開催計画について

本年の日本外科代謝栄養学会（小谷穰治会長：神戸）で例年同様に開催される医師教育セミナー（7月5日～6日）の概要が決定され、日本外科代謝栄養学会理事会で承認されたことを受けて、本理事会でもプログラムを審議し承認した。

・2020年NST専門療法士受験必須セミナーの開催計画について

2020年NST専門療法士受験必須セミナーの会場を以下のとおり確保したことが報告され、2020年の開催スケジュールとして承認がされた。

第1回：2020年2月28日-29日：みやこめっせ(予定)（定員700名）

第2回：2020年6月20日-21日：パシフィコ横浜ノース（定員700名）

第3回：2020年7月18日-19日：京都国際会館アネックス（定員550名）

第4回：2020年9月19日-20日：毎日新聞オーバルホール（定員250名）

フェロウシップ委員会（三原理事）

・フェロウシップ賞受賞者選定について

2019年の第34回学術集会応募者セッションにおいて発表された候補者の中から、厳選な審査の結果、以下の1名を受賞者として選定したことが報告され、承認された。

来年第35回学術集会の受賞者講演において研究成果の発表が予定されている。

畠山淳司 先生（横浜市立みなと赤十字病院 集中治療部）

「滅菌密閉型容器使用下での経腸栄養持続投与時の細菌汚染の検証：前向き介入研究」

なお、2020年選考からは、本理事会で検討した学術集会改革案に従い、翌年の受賞講演は行わないことが確認された。

専門療法士認定制度委員会（三原理事）

・認定教育施設の資格を有していない状態で実施修練を受け入れた施設の対応について

認定教育施設の更新を行っていない施設で、指導責任者（JSPEN認定医）が不在の状態で実施修練を行っている施設が判明した。背景として2017年以降、JSPEN認定医・指導医が資格更新できず、認定教育施設条件が満たせず失効する多くの施設もある。また、認定医・指導医であった医師の在籍はあるが、認定医・指導医失格を失効していることを本人や施設が認識しておらず、実施修練を受け入れてしまうケースもあった。以上の防止策としては、認定教育施設および施設長に対して、認定条件の確認と指導責任者の認定医としての有資格を改めて確認する必要があるため、全体調査を行うことが承認された。今回、指導責任者資格（JSPEN認定医資格）を喪失している期間中に実地修練を施行している施設については、実施修練修了証明証も渡しているため、研修生が不利益にならないようにするため、本事例の研修内容は有効とすることが確認された。

編集委員会（佐々木副理事長）

- ・オンライン投稿時提出必須書類の更新について

オンライン論文投稿システム Editorial Manager に論文投稿する際の必須書類、誓約書およびチェックリストにおいて、二重投稿防止の強化を図るための下記 2 項目を追加することが承認された。

■誓約書

本論文につきまして、

- 同一なタイトルの論文およびその論文の内容が過去に他誌含め掲載されていないこと
- 同一なタイトルの論文およびその論文の内容を他誌含め掲載する予定がないこと
- 自己申告による利益相反報告書の内容が正しいこと

を誓約いたします。

■チェックリスト

- 同一なタイトルの論文およびその論文の内容が過去に他誌含め掲載されておらず、同一なタイトルの論文およびその論文の内容を他誌含め掲載する予定がない

ガイドライン委員会（小谷理事）

- ・がん患者のための代謝・栄養管理ガイドライン作成メンバーについて

これまでの理事会審議を踏まえ、関係委員会の役員・代議員からの推薦をいただき、「がん患者のための代謝・栄養管理ガイドライン作成メンバー」の最終候補者案が提出され承認された。

- ・「糖尿病診療ガイドライン 2019」における「食事療法に関するお願い」の改訂箇所における関係学会意見について

「糖尿病診療ガイドライン」事務局（日本糖尿病学会）から、ガイドラインにおける「糖尿病患者におけるエネルギー摂取量に関する推奨」について、関係学会宛てに意見を求められたため、本委員会を持ち回り委員会を開催し、当会としての回答案が提示され、一部の加筆修正を加え、当会からの意見として日本糖尿病学会へ答申することが承認された。

臨床研究委員会（丸山理事）

- ・ISO80369-3 コネクタの導入と周知活動について

2019年2月の第34回学術集會にて、教育講演として「相互接続防止コネクタに係る国際規格の導入について」厚生労働省 医薬・生活局 医薬安全対策課 駒井信子先生にお越しいただき、「新規国際規格 ISO 誤接続防止コネクタ（経腸栄養）の本邦導入とその問題点」として講演をお願いした。さらに、医薬品医療機器総合機構（PMDA）からも周知活動への協力依頼があり、JSPEN 支部会学術集會や教育セミナーで ISO80369-3 の説明を行うことが確認された。今後の学会内での PMDA からの周知活動については、NST 専門療法士受験必須セミナー・更新必須セミナーにおいて、JSPEN INFORMATION として周知協力を行うことが承認された。支部学術集會については、全て PMDA からの講演依頼は望めないため、理事・支部長クラスで可能なところから対応していくことになった。

その他（事務局）

・認定教育施設の減少推移について

認定医の未更新（失効）、異動、指導責任者の終身認定への移行に伴い、認定教育施設が減少傾向にあることが報告された。今後、各資格制度との整合性を含めた再検討を行うことが確認された。

・学会の認める全国学会・地方会・研究会について

専門療法士認定規程で定めている「学会の認める全国学会・地方会・研究会」において、2 単位扱いの研究会については、活動実施状況を研究会抄録集の提出をもって活動状況の把握をしているが、未提出の研修会もあるため、適正な単位付与のため、活動内容も含めた全体調査を行うことが承認された。

・「NST 専門療法士認定試験 過去問題集 I」「静脈経腸栄養テキストブック」の電子出版に関する契約について

当会編集の「NST 専門療法士認定試験 過去問題集 I」「静脈経腸栄養テキストブック」に関し、南江堂から別添の電子出版に関する出版契約書が届いた。2015 年 1 月から著作権法の出版権の内容に電子書籍の公衆送信権が加わったことで、南江堂を含む、医学書の出版社数社が出資し「医書 jp」という配信サイトへの配信許諾によるもので、既に「ハンドブック」「基本問題集」については許諾していることから同様の締結であることを確認し承認された。

XIII. 各種委員会・部会 報告事項

総務委員会（飯島理事）

・メールニュースの配信開始について

4 月から会員へのニュースメール配信サービスを開始した。月 2 回のペースで認定資格情報、学術集会関係（支部会含む）、教育セミナー、事務連絡などの配信を進め、「学会誌 JSPEN」発行日には、発刊目次とともに発行案内として全会員配信も行ったことが報告された。

・日本医学会連合：動物の愛護及び管理に関する法律（以下、動物愛護法）の改正に関する日本医学会連合加盟団体としての賛同について

日本医学会連合加盟団体宛てに門田守人会長から通知があり、緊急の検討依頼であったため、理事長・総務委員長で内容を精査し、賛同する旨の回答を行ったことが報告された。

・第 6 回 JCNT 教育セミナー講師、シンポジウム 司会・シンポジストの派遣について

（一財）日本栄養療法推進協議会（以下、JCNT）主催の教育セミナーへの司会・講師派遣依頼があり、次の内容にて JCNT へ回答したことが報告された。

日時：2019 年 8 月 3 日（土）9：50～17：20（予定）

場所：千里ライフサイエンスセンター（予定）

主催：（一財）日本栄養療法推進協議会

共催：（一社）日本静脈経腸栄養学会、（一社）日本病態栄養学会、日本外科代謝栄養学会

後援：（公社）日本医師会、（一社）日本病院薬剤師会、（一社）日本臨床衛生検査技師会、（公社）日本栄養士会、（公社）日本看護協会

JSPEN 担当講演①：犬飼道雄「がん化学療法を支える NST と WAVES」

JSPEN 担当講演②：三原千恵「摂食嚥下障害の栄養管理—安全かつ楽しく食べるために—」

シンポジウム：テーマ「NST の充実に向けた取り組み—各職種の役割」

司 会：東口高志

シンポジスト（薬剤師）：室井延之「病院から地域につなぐ栄養療法と薬剤師の役割」

国際委員会（小谷理事）

- ・ 2019 年の JSPEN 関連国際学会の開催について報告がされた。

ESPEN 2019：

41st ESPEN Congress on Clinical Nutrition & Metabolism

Krakow, Poland | 31 August - 3 September, 2019

Nutrition - A Highway to Health

KSPEN 2019：

The 18th Annual Congress of KSPEN & 2019 International Symposium(KSPEN 2019)

June 21-22, 2019 / SNUBH Healthcare Innovation Park, Seoul, Korea

ASPEN 2020：

Nutrition Science & Practice Conference

March 28-31, 2020 · Tampa, Florida

PENSA Congress 2019

October 8-10, 2019 Hong Kong.

- ・ 第 48 回世界外科学会議（WCS2019）

国際外科代謝栄養学会（IASMEN）（東口理事長が IASMEN 理事長）

日時：2019 年 8 月 11 日（日）～15 日（木）

場所：クラクフ、ポーランド

国際委員会—LLL ワーキンググループ（高増理事）

- ・ 第 16 回 LLL ライブコースを以下のとおり開催した。今回は 6 コースで開催した。

日時：2019 年 3 月 16 日（土）～17 日（日）

場所：北里大学白金キャンパス 1 号館

参加申込累計数：90 名

国際委員会—nutritionDay ワーキンググループ（小谷理事）

- ・ ESPEN への派遣に伴う予算の執行について

2018 年にマドリードで行われた ESPEN Congress 2018 の際に行われた nutritionDay special interest group meeting および national coordinator meeting 出席のため、渡航補助予算として 20 万円を計上し、理事会承認のもとに執行した。武元 WG 長からの報告書も提出された。

大柳治正記念学術振興アワード選考委員会（小谷理事）

- ・2020年受賞選考について

第34回学術集会時に委員会を開催し、第35回学術集会（2020年）での受賞候補者の職種および候補者について検討を行ったことが報告された。本審議内容については、記念アワード選考WGに引継ぎ、継続選考をお願いすることになった。

専門療法士認定制度委員会（三原理事）

- ・認定試験ワーキンググループ（WG）の会議について

昨年同様、専門療法士、認定医、認定歯科医を対象とした試験問題を作成する。なお、認定医、認定歯科医の試験については、専門療法士認定試験とは構成を別にする。また、資料に基づき、専門療法士の症例報告書審査会の件、今後のスケジュールについて報告がされた。

編集委員会（佐々木副理事長）

- ・e-Journal「学会誌 JSPEN」掲載状況（2019年5月7日現在）について報告がされた。

- ・日本静脈経腸栄養学会雑誌 刊行状況（2019年5月14日現在）

2019年第34巻で刊行終了となる日本静脈経腸栄養学会雑誌について、ジェフ社より刊行日変更の報告を受けた。例年は3月、5月、7月、9月、11月に各号が刊行されるが、2019年度は下記の通り発行スケジュールが変更となる。3月、6月、8月、10月、12月になることが報告された。

- ・e-Journal「学会誌 JSPEN」論文投稿状況（2019年5月7日現在）について報告がされた。

- ・e-Journal「学会誌 JSPEN」投稿における原稿受領から採用決定までの平均日数について
郵送投稿 220日（「2018年時点において日本静脈経腸栄養学会雑誌への投稿含む」）

オンライン投稿 77日

オンライン投稿を導入し、採用決定までの日数短縮が実現できたと考えられる。

- ・座長推薦論文について

JSPEN 2019において94名の座長より86演題について推薦をいただき、各推薦演題の筆頭演者へ、メールにて論文投稿の案内を配信したことが報告された。

用語委員会（鍋谷理事）

- ・用語解説掲載について

待望の第1稿「腸管リハビリ」、そして第2稿「ビタミンB1」が査読を経て、学会誌 JSPEN に掲載された。現在、第3稿の「サルコペニア肥満」を校正中であり、今後継続的に読者に有益な情報を提供できるよう進めていることが報告された。

その他（事務局）

- ・臨床栄養代謝専門療法士暫定認定申請のWEB事前登録の開始について

5月20日（月）より臨床栄養代謝専門療法士の暫定認定申請が開始されることが報告された。申請期日は7月末日（消印有効）とし、事務局での書類確認を経て、委員会にて審査を行い来年2月の社員総会にて暫定認定者を承認する。広報については、学会ホームページ、メールニュース、更新必須セミナーの認定制度の講義にて説明を行った。

- ・専門療法士新規・更新認定申請のWEB事前登録申請の開始について

6月10日（月）より専門療法士の新規・更新認定申請のWEB事前登録申請が開始予定であることが報告された。今年から新規申請は学会員であることが条件となる。ただし、WEBでの認定申請は当会としても導入初年度となるため、不具合等には柔軟に対応し、認定制度の正当性を逸脱しない範囲で申請者の不利益にならないような対応と配慮を行うことが確認された。

- ・2018年度日本栄養学学術連合第2回全体会議について

2018年12月21日（金）15:00～17:00にて、東京国際フォーラムガラス棟 G504において、日本栄養学学術連合の第2回全体会議が以下の議題にて開催されたことが報告された。

以 上

2019年5月17日（金）